

■滝川政次郎 法制史学者。弾圧で帝大追われ、大陸に転出するも、90を超えなお世人驚かす業績。極東裁判弁護人も。

たきかわまさじろう  
八幡製鉄始・1897＝

大阪市西区靱上通二丁目で、米穀商滝川与之吉の次男に生まれる。母はシナ。

大阪市立東江尋常小学校付属幼稚園から、

同小に進み、

日露戦争終・1905＝ 8歳：  
満鉄発足・・・1906＝ 9歳：

卒業後、一旦奉公に出、私立関西商工学校の夜学に通うが、向学の念から、桃山中学に編入し、

明治天皇没・1912＝15歳：

第一次大戦始1914＝17歳：卒業。神戸高等商業学校進学を希望していたが、実業家芝川栄助の勧めで、第一高等学校丙類に入学、  
21ヶ条要求・1915＝18歳：  
母方の祖父が有職故実の研究者だったことから、制度史に興味を抱くようになり、

ベルサイ条約・1919＝22歳：卒業すると、東京帝国大学法学部に進み、

原敬首相暗殺1921＝24歳：  
水平社結成・1922＝25歳：卒業。南満州鉄道に勤務するも、希望の調査部に配属されず、退社し、  
中央・法政・日本大学の講師として、法制史を講義、

護憲三派圧勝1924＝27歳：  
治安維持法・1925＝28歳： 美濃部達吉の推薦で、九州帝国大学助教授に就任。

金融恐慌・・・1927＝30歳： 同大教授に昇進したが、〈九大事件〉に連坐して休職、  
共産党事件・1928＝31歳： 著書・論文もきわめて多く、「日本法制史」、  
世界恐慌・・・1929＝32歳： 免官となり、官公立大学教師としての前途を失うが、  
海軍軍縮条約1930＝33歳：「日本奴隸経済史」。\*早くも中央大学教授に就任するなど、研究者としての評価は高く、以後も慶応義塾大  
学等々の兼任講師として招かれ、多くの私立大学における法制史講座の開設者となる。

満州事変・・・1931＝34歳：「律令の研究」などは特に著名で、版を重ね、学界活動も盛んで、社会経済史学会設立に関与し、  
国際連盟脱退1933＝36歳：  
帝人疑獄事件1934＝37歳： \*法学博士の学位を得たが、大化改新に関する一論考により、いわゆる国体尊厳を主唱する人々の攻撃をう  
け、内地における職を失い、満洲国(中国東北区)司法部法学校教授に転出。

日中戦争始・1937＝40歳：

大政翼賛会・1940＝43歳：建国大学教授に就任。

日米開戦・・・1941＝44歳： 満洲学会会長をつとめ、  
・・・1942＝45歳：

敗戦・・・1945＝48歳： 新京で敗戦を迎え、ソ連軍の捕虜となった後、帰国。弁護士生活を始め、  
軍部弾圧受けたにもかかわらず、極東国際軍事裁判弁護人(元海軍大臣嶋田繁太郎担当)などをつとめ、  
新憲法施行・1947＝50歳： 鶴沢総明の依頼で大東文化学院の大学昇格に尽力、その縁で明治大学講師となり、

三大事件・・・1949＝52歳： 明大の野間繁の要請で、\*国学院大学政経学部教授となる。

独立回復・・・1951＝54歳：  
マーティン事件・ 1952＝55歳： 地方史研究所を設立、理事長となり、  
TV放送始・・・1953＝56歳： 近畿大学教授を兼任、  
以後、多方面の学者を集め、余市・熊野・高千穂・阿蘇・出雲・隠岐などの地方史調査に従事する。

安保闘争・・・1960＝63歳：

TV宇宙中継始1963＝66歳：同大学法学部教授に転任、

霞ヶ関ビル・ 1968＝71歳： 定年退職となり、それまでの代表的論考が「法制史論叢」にまとめられた。

全共闘バカ・1969＝72歳：  
その後も、律令研究会会長、人足寄場顕彰会会長、式内社研究会会長などをつとめ、

石油ショック1973＝76歳：

成田衝突・・・1978＝81歳：  
 齢90を越えても、研究をつづけ、  
リクルート事件・ 1988＝91歳： 「唐の二王後の制と我が二国造の制」を発表して、世人を驚倒させ、  
バブル崩壊・1992＝95歳： \*没した。書斎には、死の一週間前まで書き続けられた、古代史関係の稿がつまれていたという。

インターネットWikipedia、